

「カタツムリの産卵 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

自然の観察で一番重要なのは「一瞬を見逃さない」ということだと思う。「 TENTUMシの羽化の一瞬」「アゲハの幼虫の脱皮の一瞬」などである。カタツムリも同じだ、せっかく目の前に「産卵中のカタツムリ」がいるのだから、できるだけ多くの子どもに「産卵の一瞬」を見せたい。



幸いこのミスジマイマイの「親カタツムリ」は、まるで産卵の様子を公開しているように、飼育ケースの透明蓋の裏側に産卵していた。休み時間に子どもたちと見ている最中に、さっそく1個産んでくれた。もちろん子どもたちは歓声をあげていた。



私もカタツムリの産卵の一瞬は初めて見た。お尻のほうから卵を産むと思っていたら、頭の脇から卵が出てくる。交尾も産卵も頭のほうからするようである。



カタツムリはその後、20分に1個ぐらいのペースで、まん丸の卵を産み続け、最終的に40個以上の産卵をして終わった。



私は今度は孵化の一瞬を観察したいと思い、持ち主の男の子に頼んで、キャベツに産み付けられた卵を6~7個もらってシャーレに入れておいた。ミスジマイマイの卵の、孵化までの期間20日前後である。小さなカタツムリが生まれてくるのが楽しみだ。

【子どもの絵だより (絵日記) から】

「今日、2組の〇〇君が、大きいカタツムリを持ってきて、見せてくれました。きのうも見せてくれたけど、カタツムリしかいませんでした。でも今日見たら、たまごが30個ぐらいもあって、びっくりしました。おかあさんカタツムリは、むしかごのふたのところ、たまごをうんでいました。丸くて、小さなビーダマみたいでした。頭らへんからうんでいました。先生が7個ぐらいもらっていたので、早く赤ちゃんカタツムリを見たいです」